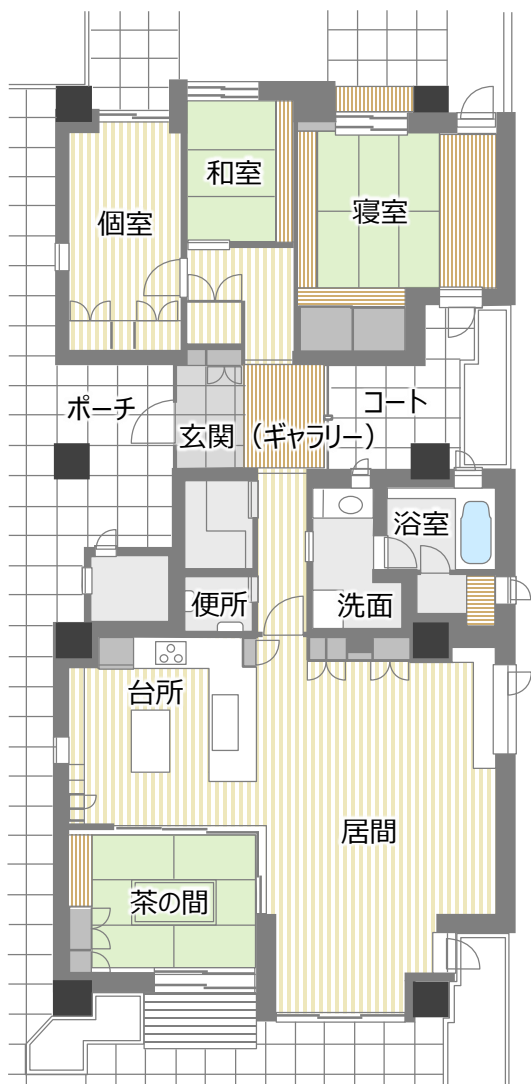


## 安らぎの家

設計：建築環境研究所



人が集まりやすく、誰もが安らげる家。

50代夫婦が、子どもがいなくなることを前提に、設計に参加しました。長男は転勤、長女は結婚により、入居2年でほぼ同時に退去したため、核家族期とエンプレィネスト期の住まい方の比較が可能となりました。



### 家族構成 (入居時)

夫(56歳)：会社員

妻(52歳)：専業主婦

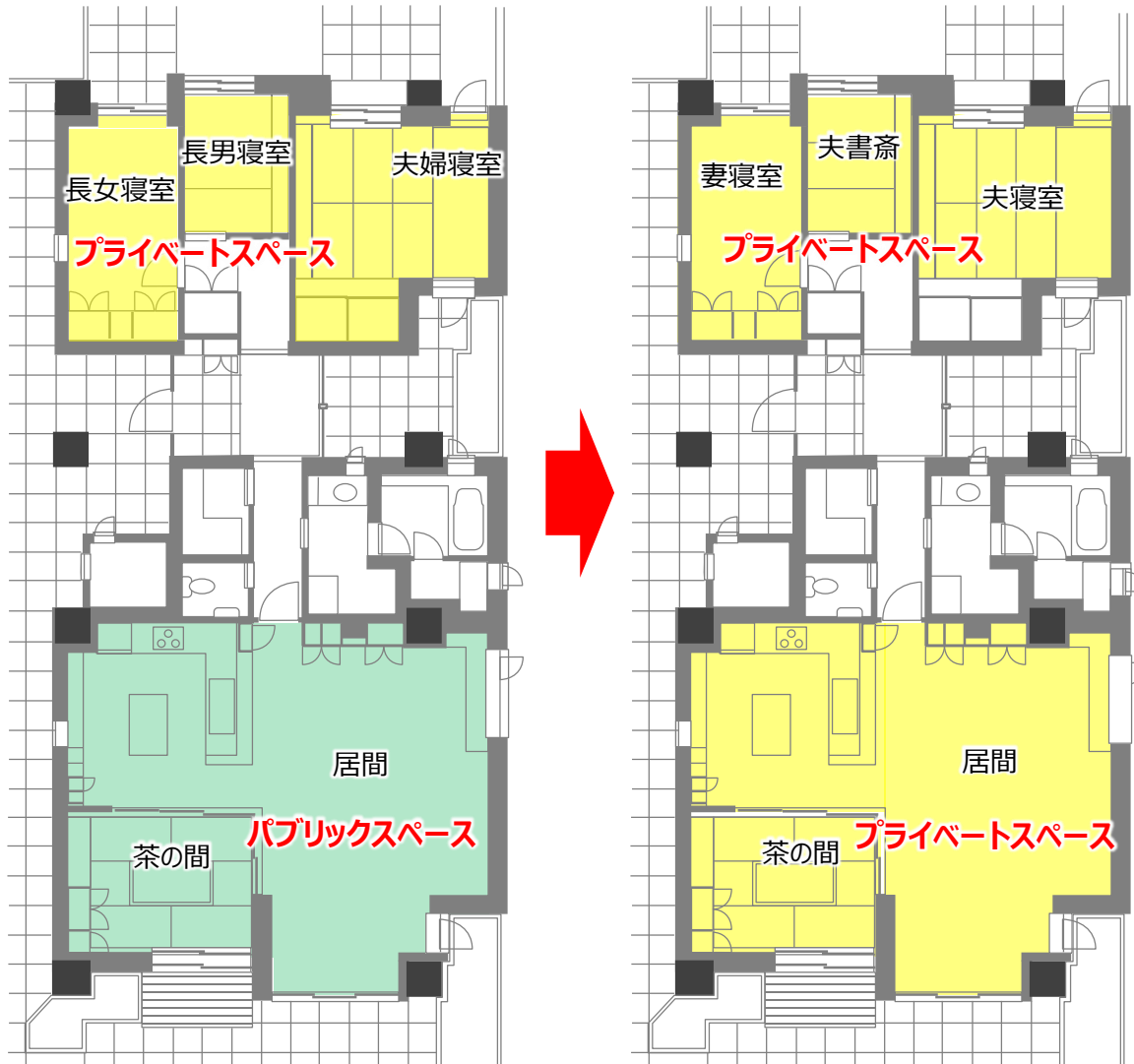
長男(26歳)：会社員

長女(22歳)：会社員

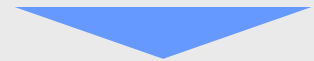
### 住戸概要 (134.64m<sup>2</sup>)

- ・人が集まるパブリックゾーン(南側リビング等)と、家族が使うプライベートゾーン(北側の個室)がある。
- ・人が集まりやすく、誰もが安らげる家。
- ・玄関横にミニ個展ができるようなギャラリー空間がある。

## 室用途・プライベートスペースとパブリックスペース <入居1年目> <入居4年目>



- 入居当時は4人家族でしたが、2年後に子どもが独立し、エンティネストとなりました。
- 入居当初は来客が多く、パブリックスペースとプライベートスペースを上手く使い分けていました。



- 子どもが独立し、夫がリタイアすると、仕事仲間等の来客が減り、リビングは子ども夫婦等のプライベートな来客と楽しむ場となりました。

[凡例]

パブリックスペース

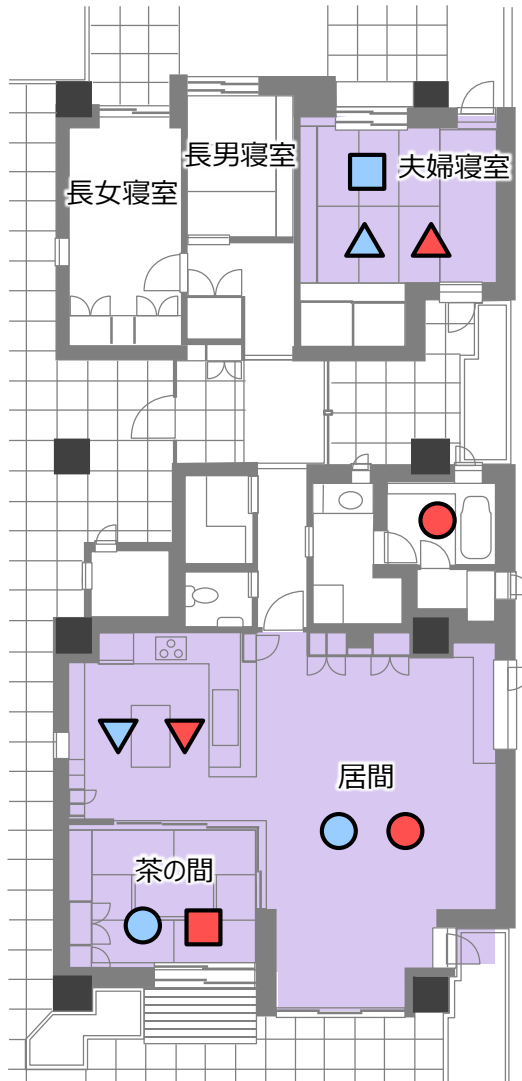


プライベートスペース

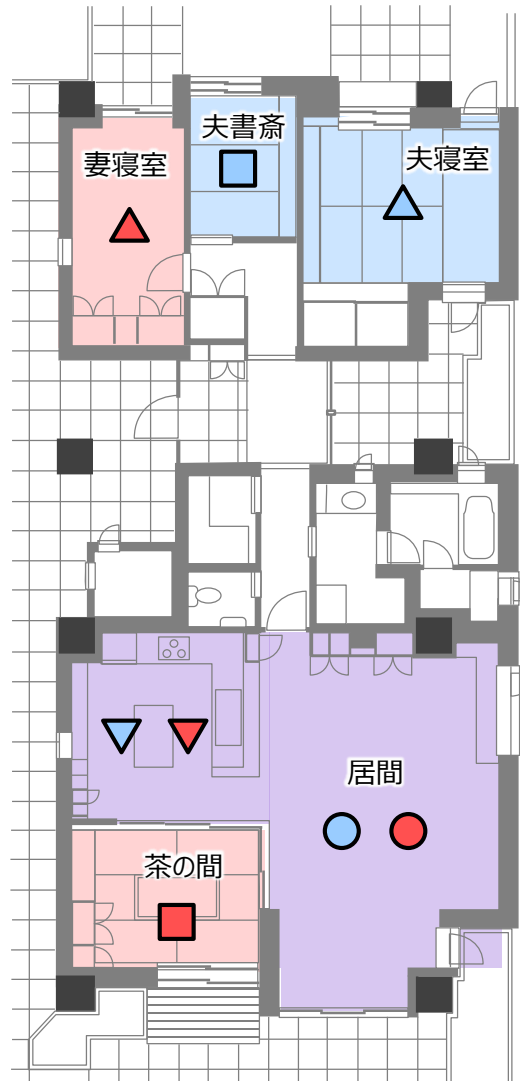


## 室用途・行為場所

<入居1年目>



<入居4年目>



・子供の独立で空間に余裕ができ、夫婦それぞれの「パーソナル」なスペースがあちこちにみられるようになりました。

- ・エンティネスト期は、プライベートな来客や、夫婦と一緒に過ごせるリビングが大切な空間となりました。
- ・また、一人で過ごせるパーソナルな空間を確保することが望まれるようです。

[実験の詳細はこちら](#)

[凡例]

	夫	妻	
就寝場所	▲	▲	夫の使う部屋
食事場所	▼	▼	妻の使う部屋
くつろぐ場所	○	○	夫婦の使う部屋
個人作業場所	■	■	